

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地										
福岡スクールオブミュージック&ダンス専門学校	平成11年3月31日	木原 義正	〒812-0032 福岡市博多区石城町21-2 (電話) 092-262-2118										
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地										
学校法人滋慶文化学園	平成8年3月13日	覚野 博夫	〒812-0032 福岡市博多区石城町21-2 (電話) 092-262-6747										
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士									
文化・教養	文化・教養専門課程	プロミュージシャン科	平成13年文部科学省 告示第24号	—									
学科の目的	「芸能人」的イメージで捉えられがちなミュージシャンという職業について、より系統だった学習などビジネスマインドへのアプローチを行うことにより明確な職業意識、技術、さらに創造性を持った職業音楽家の育成を目的とする。												
認定年月日	平成26年 3月31日												
修業年限	昼夜	講義	演習	実習	実験	実技							
2年	114単位	1610時間	2750時間	時間	時間	時間							
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数								
160人	106人	0人	2人	22人	24人								
学期制度	■1学期:4月1日～9月30日 ■2学期:10月1日～3月31日		成績評価										
長期休み	■学年始:4月1日 ■夏季:8月1日～8月20日 ■冬季:12月23日～1月9日 ■学年末:3月31日		卒業・進級条件										
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 ・定期的な本人との連絡、面談 ・個別課題の出題 ・特別補講の実施		課外活動										
就職等の状況※2	■主な就職先、業界等(平成29年度卒業生) ・音楽プロダクション/楽器メーカー/音楽教室等		主な学修成果(資格・検定等)※3										
	■就職指導内容 ・就職対策授業・校内企業説明会の実施・就職担当個別面談・面接指導・履歴書指導・身だしなみ指導 他												
■卒業者数 44 人 ■就職希望者数 0 人 ■就職者数 0 人 ■就職率 : 0 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 0.0 %		<table border="1"> <tr> <td>資格・検定名</td> <td>種</td> <td>受験者数</td> <td>合格者数</td> </tr> <tr> <td>JESCO認定 コミュニケーションズ キルアップ検定</td> <td>③</td> <td>60人</td> <td>56人</td> </tr> </table>				資格・検定名	種	受験者数	合格者数	JESCO認定 コミュニケーションズ キルアップ検定	③	60人	56人
資格・検定名	種	受験者数	合格者数										
JESCO認定 コミュニケーションズ キルアップ検定	③	60人	56人										
■その他 ・デビュー希望者 68名		<p>※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するもの記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)</p> <p>■自由記述欄 コンテスト実績、デビュー実績等は、ホームページに記載 URL: <a href="http://www.fsm.ac.jp/">http://www.fsm.ac.jp/</a></p>											
中途退学の現状	■中途退学者 9 名 平成29年4月1日時点において、在学者109名(平成29年4月1日入学者を含む) 平成30年3月31日時点において、在学者101名(平成30年3月31日卒業者を含む) ■中途退学の主な理由 経済的問題・進路変更等		■中退率 8.4 %										
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 無 ※有の場合、制度内容を記入 ■専門実践教育訓練給付: 非給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載												
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無												
当該学科のホームページURL	<a href="https://www.fsm.ac.jp/">https://www.fsm.ac.jp/</a>												

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください。

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者を含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年度に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賞金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学状況等について記載します。

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係			
(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針			
教育課程の編成において、企業・団体等の意見を活かし、必要となる最新の知識、技術を反映するために、企業・団体等が委員として参加する教育課程編成委員会を設置する。また委員会においては、教職員と業界で活躍する非常勤講師が講師会において検討している授業科目の開設や授業方法の改善等の情報や、年2回開催(7月・10月)の合同企業説明会/新人発掘プレゼンテーションでの企業アンケート、また随時教務担当者による企業訪問等を通じての意見も充分に考慮して、教育内容に反映していくものとする。			
(2)教育課程編成委員会等の位置付け			
教育課程の編成は、理事会のもとに設置された教育課程編成委員会において検討した内容を、充分に考慮した上で、学科会議において編成を行なうものとし、委員会の適切な運営は理事長が担保することとなっている。 (以下図により、編成意思決定の課程を示す)			
(教育課程編成委員会)	(学校・学科)	(教育課程編成委員会)	(学校・学科)
P(プラン)	D(実行)	C(チェック)	A(改善)
↑			
(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿			
平成30年7月31日現在			
名前	所属	任期	種別
吉田 孟史	学校法人 滋慶文化学園	平成29年4月1日～平成31年3月31日(2年)	学校委員 常務理事
木原 義正	福岡スクールオブミュージック&ダンス専門学校	平成29年4月1日～平成31年3月31日(2年)	学校委員 学校長
清水 敬博	福岡スクールオブミュージック&ダンス専門学校	平成29年4月1日～平成31年3月31日(2年)	学校委員 運営部長
山本 悠樹	福岡スクールオブミュージック&ダンス専門学校	平成29年4月1日～平成31年3月31日(2年)	学校委員 事務局長
矢野 訓男	福岡スクールオブミュージック&ダンス専門学校	平成30年4月1日～平成31年3月31日(1年)	学校委員 教務部長
古賀 重則	福岡スクールオブミュージック&ダンス専門学校	平成29年4月1日～平成31年3月31日(2年)	学校委員 次長
甲斐 大作	福岡スクールオブミュージック&ダンス専門学校	平成29年4月1日～平成31年3月31日(2年)	学校委員 学科長
西本 祐介	福岡スクールオブミュージック&ダンス専門学校	平成29年4月1日～平成31年3月31日(2年)	学校委員 学科長
伊藤 志歩	福岡スクールオブミュージック&ダンス専門学校	平成29年4月1日～平成31年3月31日(2年)	学校委員 学科長
白石 美可	福岡スクールオブミュージック&ダンス専門学校	平成29年4月1日～平成31年3月31日(2年)	学校委員 学科長
谷村 興志雄	NPO法人 ASUE 代表理事	平成29年4月1日～平成31年3月31日(2年)	①
坂口 聡	株式会社フリーダムエンタテインメント代表取締役	平成29年4月1日～平成31年3月31日(2年)	③
伊藤 公了	株式会社KISS・MUSICチーフプロデューサー	平成29年4月1日～平成31年3月31日(2年)	③
高橋 剛	株式会社エスエルアイ	平成29年4月1日～平成31年3月31日(2年)	③
奥 功二	株式会社ハーツコーポレーションチーフプランナー	平成29年4月1日～平成31年3月31日(2年)	③
※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。 ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役員(1企業や関係施設の役員は該当しません。) ②学会や学術機関等の有識者 ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役員			
(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期			
委員会として年間2度の開催を予定しており、年度第1回目を毎年6月、第2回目を翌年2月～3月の間に実施している。今年度開催予定日時は以下の通り。また別途、委員企業との個別の討議は随時開催。 (開催日時)平成30年度 第1回 平成30年6月14日 14:45～16:00 第2回 平成31年2月実施予定			
(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況			
毎年2回実施している教育課程編成委員会は、2部制で行っている。第1部は学校教育全般に対するご意見やご指導をいただく場としており、学校全般の教育について広くご意見をいただいている。また第2部は各専門分野に分かれて分科会という形で実施している。ここでは専門的な業界知識の向上や、現状の業界に対しての教育力を高めるためのご意見やご要望をいただく場として行っている。ここでいただいたご意見やご要望に関しては、即対応できるものから、時間をかけて取り組むべきことまで様々なものがあり、本校の教育理念に照らし合わせて活かすべきことは積極的に取り入れている。これはカリキュラム・シラバスはもとより、人間教育の面も含まれている。委員会で出た意見の一部とその活用状況は以下の通り。 ◆入社をして早い段階から、夢を持って入ってきたが、辞めてしまうケースがある。業界自体も変化が必要な状況がある。キャリア教育の一環としての、コミュニケーションスキルアップ検定の導入や、ホスピタリティオリエンテーションの実施等で、自己マネジメント力の強化に努めていきたい。また、企業説明会などを通して、企業研究の徹底をする。インターンシップの強化を行い就職観を育んでいきたい。 ◆インターネット社会になって、地方どうかが関係ない。地元テレビ局とタイアップして何かできればいいかと思っている。 ◆種集中型のエンタテインメント業界の形が変化していることをしっかりと捉え、イベントの実施や企業連携のさらなる強化が求められていることを認識。産学連携においては、エンタテインメント業界のみならず、他業種、他業界との連携を模索して行く必要性を痛感している。			
2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係			
(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針			
本校は実践的な能力を有した職業人教育を行うため、業界と学校が連携して行う「産学連携教育」を教育の基本としている。実践的な能力とは、業界の求める専門技術・知識、並びに人間力を持ち合わせた即戦力人材であると考え、その育成を業界とともに実習・演習を実施していくことを基本方針とする。 指導は本校の人材育成に賛同頂ける企業等から講師を招へいし実施しており、またカリキュラムの編成は教育課程編成委員会をベースに様々な業界からのヒアリングや企業訪問、校内就職イベント等での接触時において実施し、カリキュラム編成に活かしていくこととする。			
(2)実習・演習等における企業等との連携内容			
実習・演習は、連携企業と協定書等を交わした上で、業界から派遣される業界のプロが非常勤講師として指導を行っている。また、カリキュラムのひとつである「企業プロジェクト」は、協定書などを通じて課題を提案していただき、コンセプト作成からエンタテインメントの制作そしてプレゼンテーションにいたるまでのカリキュラムを、業界人である非常勤講師が指導を行うものであり、企業と連携してエンタテインメントの作品制作に取り組んでいくという、まさしく実践力を身につけるための実習である。その実習・演習の評価は、制作力とその制作過程を通して、実践的な力を身につけているかどうかという視点で判断し、総合的な評価を行っている。またインターンシップ(業界研修)を実施し、企業の担当者の指導のもと、現場体験を深めさらなる即戦力としての技術・知識等の習得を行っている。			

(3) 具体的な連携の例 ※科目数については代表的な5科目について記載。		
科目名	科目概要	連携企業等
コミュニケーションスキル Communication Skills	人間関係作りのツールとなるコミュニケーション能力。その習得及び向上を目的に、自己表現スキル、社会的スキル、サービスマインド等を体系的に学び、社会人として柔軟に活用できることを狙いとします。	有限会社セレーノ・コーポレーション
バンド アンサンブル Band Ensemble	バンド形態で楽器だけの演奏、ヴォーカルアンサンブルを通し、様々なジャンルのアンサンブル力やコミュニケーション力を習得します。	株式会社キスミュージック
プロジェクト Project	産学連携教育システムの一環として、業界の企業からいただいた課題に応じて、楽曲・作品・イベント制作等に取り組み実践力を養成する。	株式会社キョードー西日本 有限会社アクセス
インターンシップ Work Experience	最終学年次に業界企業(特に志望企業)の現場で実際の業務に携わり、内定獲得を目標に実践力を習得する。	株式会社BSQ 株式会社ストロベリーメディアアーツ 株式会社舞研 等
ワークショップ Workshop	学内および学外から依頼を受けたイベント等の実施時に必要とされる企画・管理・運営・制作等の現場力を養います。	株式会社スタッフ 株式会社エルエスアイ 有限会社アイティブイ

### 3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

#### (1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

研修は教職員規程において、一般教員、学科長、教務部長を対象とし、教員の授業内容・教育技法を改善並びにクラス運営の向上、マネジメント能力を含む指導力の向上を研修の目的と定める。研修内容は組織における人材育成・キャリア開発のサポートを目的とする一般社団法人滋慶教育科学研究所(JESC)との連携を通じての研修を中心に、別途業界関連企業が行う教育関係者向け研修を学校として組織的に計画、実施を行うものとする。

#### (2) 研修等の実績

##### ① 専攻分野における実務に関する研修等

- 平成29年3月3日 JESC主催「春季講師研修会」を実施。全学科長4名参加 関連する業界の方に同席いただき、現場で実際に起こっている問題を元に業界で求められるスキルを授業の中でどうフィードバックしていくべきかを学んだ。
- 平成30年1月18日 ツウイッタージャパン株式会社「音楽ビジネスにおける、SNSマーケティング」を全職員対象に実施。次世代の業界におけるプロモーションツールの活用方法を学んだ。
- 平成29年9月29日 関西舞台テレビテクノ&アート協同組合主催「足場組み立て等作業従事者特別教育」を実施。2名参加。高所作業における危険回避方法を必要になるための作業を学んだ。
- 平成29年6月22日、12月13日 平成30年2月28日「パフォーミングアーツ教育会」プロミュージシャン科、音楽プロデューサー科、商業音楽科を実施。各学科3学科長が参加。業界の動向と専門分野における実務に関する知識・技術・技能についても学んだ。
- 平成29年6月22日、平成30年2月16日「パフォーミングアーツ教育会」ダンス&アクターズ科を実施。学科長1名と担任1名が参加。インターナショナルプログラムにおけるケーススタディなど、基礎力向上のための技術、技能について学んだ。

##### ② 指導力の修得・向上のための研修等

JESC主催のもと、一般教員を対象とした研修として、適切なカウンセリング・キャリア相談を行い、課題解決に向けた支援ができるアドバイザーの養成を目指す「進路アドバイザー研修(H29年7月)」、学生や保護者への対応向上を目指す「教職員カウンセリング研修(H29年9月)」、行動規範を振り返り組織人としてのアイデンティティの確立を目指す「フォローアップ研修(H29年11月)」、キャリア教育の意義や必要性・アプローチ法を学ぶ「キャリア教育カウンセラー研修(H29年11月)」等を実施。また、学科長クラスを対象とした研修として、学生変化に沿った教授法を学ぶ「FDミドルレベル研修(H29年6月)」、事務局長・教務部長レベルを対象として、教育システム開発の基礎を学ぶ自校の教育戦略のマネジメントを学ぶ「FDマクロレベル研修(H29年10月)」、学校運営に関する必要な知識の習得を目指す「マネジメント研修(H29年10月)」、研究発表・教育会活動報告を行う「滋慶教育科学学会(H29年12月)」等を実施。さらに、全職員を対象とした研修として、業務で使用するコンピュータの正しい利用方法の取得を目指す「コンピュータ研修(H29年12月)」等も実施している。

また、JESC主催以外の研修として、滋慶COMホスピタリティ研修センターによる学生にホスピタリティ・マインドを持ってもらうための教育をコーディネートし指導をするホスピタリティコーディネータを養成するための「ホスピタリティコーディネータ研修(H29年6月、H29年10月)」も実施。

#### (3) 研修等の計画

##### ① 専攻分野における実務に関する研修等

「春季/秋季講師研修会」においては、業界の動向と専門分野における実務に関する知識・技術・技能について学ぶことを目的に実施をする。また、「パフォーミングアーツ教育会」は業界の方を招いて3月、6月、12月に実施予定。これから求められる即戦力となる人材を育成するため、常に最新かつ現場目線での情報を得、教員として必要な実務に関する知識、技能を身につける。

##### ② 指導力の修得・向上のための研修等

平成30年度もJESC主催のもと各種研修を計画している。一般教員を対象とした研修として、滋慶グループを知り自分らしさを活かして仕事を楽しむことを目的とする「新入職者研修(H30年3月)」、適切なカウンセリング・キャリア相談を行い、課題解決に向けた支援ができるアドバイザーの養成を目指す「進路アドバイザー研修(H30年7月)」、学生や保護者への対応向上を目指す「教職員カウンセリング研修(H30年10月)」、行動規範を振り返り組織人としてのアイデンティティの確立を目指す「フォローアップ研修(H30年11月)」を計画。また、学科長クラスを対象とした研修として、学生変化に沿った教授法を学ぶ「FDミドルレベル研修(H30年6月)」、事務局長・教務部長クラスを対象として、教育システム開発の基礎を学ぶ自校の教育戦略のマネジメントを学ぶ「FDマクロレベル研修(H30年10月)」、学校運営に関する必要な知識の習得を目指す「マネジメント研修(H30年10月)」、研究発表・教育会活動報告を行う「滋慶教育科学学会(H30年12月)」を計画している。

さらに、JESC主催以外の研修として、滋慶COMホスピタリティ研修センターによる学生にホスピタリティ・マインドを持ってもらうための教育をコーディネートし指導をするホスピタリティコーディネータを養成するための「ホスピタリティコーディネータ研修(時期未決定)」も計画している。

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

学校教職員による委員他、卒業生、保護者代表、近隣関係者、高校関係者、業界関係者により構成される学校関係者評価委員会を組織し、この委員会が、学校教職員が行なった自己点検・自己評価の内容を審議・評価する事を通じて学校運営の改善に活かす事を基本方針とする。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	教育理念・目的・育成人材像
(2) 学校運営	学校運営
(3) 教育活動	教育活動
(4) 学修成果	教育成果
(5) 学生支援	学生支援
(6) 教育環境	教育環境
(7) 学生の受入れ募集	学生の募集と受け入れ
(8) 財務	財務
(9) 法令等の遵守	法令等の遵守
(10) 社会貢献・地域貢献	社会貢献
(11) 国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

評価委員の意見を参考にしながら、学校運営の更なる向上に努めていきたいと考え、実行している。  
人間教育についての重要性から地域と連携した取り組みを行ってほしいというご意見を頂き、社会面として「地域のお祭り(大浜祭り)」の参加協力を行った。学生のボランティア活動やイベントを通して地域との関わりをより強めていくということは、「経験」という観点から人間教育の大切な部分であると考え、積極的にやっていくものである。また教育面として、地域企業・自治体からの企業プロジェクトに取り組んでいる。プロジェクト例としては、「博多どんたくステージ制作・出演」・キョード西日本企業課題「ナンバーショット」制作、NPO法人ASUE連携「SUNSET LIVE」制作等である。人間力を高め実践力を身につけた学生育成を期待する声に応えられるよう今後も定期的に取り組んでいく。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名前	所属	任期	種別
村上 裕美	保護者代表	平成30年4月1日～平成31年3月31日(1年)	保護者
大島 弘枝	福岡市大浜公民館 館長	平成29年4月1日～平成30年3月31日(1年)	地域
田中 真太郎	福岡県立香椎高等学校 学校長	平成29年4月1日～平成30年3月31日(1年)	高校
坂口 聡	株式会社フリーダムエンタテインメント 代表取締役	平成29年4月1日～平成30年3月31日(1年)	企業
伊藤 公了	株式会社KISS・MUSIC チーフプロデューサー	平成29年4月1日～平成30年3月31日(1年)	企業
高橋 剛	株式会社エスエルアイ 専務取締役	平成29年4月1日～平成30年3月31日(1年)	企業
奥 功二	株式会社ハーツコーポレーション チーフプランナー	平成29年4月1日～平成30年3月31日(1年)	企業

平成30年7月31日現在

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。  
(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

ホームページ 毎年 7月末

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

企業等への具体的な情報提供方法としては、学校関係者評価委員会において、評価項目の添付資料として「教育指導要領・重点項目」を閲覧に供することで、教育活動から学校運営の情報が提供できるものとする。また、業界関係者である非常勤講師と教職員との間で開催する講師会において、教育活動から学生情報や学校運営に関する情報を提供していくものとする。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	建学の理念・4つの信頼、校長名・所在地・連絡先、沿革、その他の諸活動に関する計画
(2) 各学科等の教育	入学者に関する受け入れ方針、カリキュラム、学年歴、シラバス、卒業・進級判定基準、卒業後の進路
(3) 教職員	教職員数、組織図、教員の業績
(4) キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育への取り組み状況、実践的職業教育・就職・デビュー支援
(5) 様々な教育活動・教育環境	校舎設備紹介、様々な教育活動・教育環境
(6) 学生の生活支援	学生支援への取り組み状況
(7) 学生納付金・修学支援	学費一覧・諸費用について、奨学金・教育ローン
(8) 学校の財務	財務資料
(9) 学校評価	学校関係者評価委員会
(10) 国際連携の状況	留学生支援、外国の学校との交流状況
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

ホームページ、広報誌等の刊行物 URL: <http://www.fsm.ac.jp/>

## 授業科目等の概要

(文化・教養専門課程プロミュージシャン学科) 平成30年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 単 位 数	授 業 時 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			ミュージックセオリー I・II・III・IV Music Theory	音楽の言語となるもので、音楽コミュニケーションの基本から楽譜・アレンジなど実践的な要素を習得します。	1・2通	120	8	○			○			○	
○			イヤートレーニング I・II Ear Training	音を聴き分けたり、音程感やリズム感を養うものとして、身の回りの音から創作力を習得します。	1通	60	4	○			○			○	
○			グローバル コミュニケーション I Global Communications	英会話をネイティブスピーカーより基礎から学び、国際社会に対応する為の、コミュニケーション力を養います。	1通	30	2	○			○			○	
		○	グローバル コミュニケーション II Global Communications	英会話をネイティブスピーカーより学び、コミュニケーション力を養います。	1通	30	2	○			○			○	
		○	グローバル コミュニケーション III Global Communications	より高度な英会話をネイティブスピーカーより学びコミュニケーション力を養います。	2通	30	2	○			○			○	
○			コミュニケーション スキルアップ Communication Skill Up	社会人、職業人になるために必要な基本的なマナー、コミュニケーション能力を養います。	1通	30	2	○			○			○	○
○			キャリア教育 Career Education	様々なワークショップを通して人間関係形成能力・情報活用能力・将来設計能力・意志決定能力を養います。	1・2通	240	16	○	○		○		○		
○			業界知識 Industry Knowledge	エンターテインメント業界で活躍するための基礎知識を習得します。	1・2通	随時	認定	○			○			○	
		○	医療・スポーツ Medical Sports	福岡医健・スポーツ専門学校の専門授業 授業詳細は福岡医健スポーツ専門学校の学生便覧に準拠します。	1・2通	240	16	○			○			○	
		○	デザイン Design	福岡デザイン&テクノロジー専門学校の専門授業 授業詳細は福岡デザイン&テクノロジー専門学校の学生便覧に準拠します。	1・2通	240	16	○			○			○	
		○	動物 Animal	福岡ECO動物海洋専門学校の専門授業 授業詳細は福岡ECO動物海洋専門学校の学生便覧に準拠します。	1・2通	240	16	○			○			○	
		○	調理 Cooking	福岡キャリアナリー製菓調理専門学校の専門授業 授業詳細は福岡キャリアナリー製菓調理専門学校の学生便覧に準拠します。	1・2通	240	16	○			○			○	

## 授業科目等の概要

(文化・教養専門課程プロミュージシャン学科) 平成30年度														
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択					講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
	○		ホテル・ブライダル・観光 Hotel Bridal Tourism	福岡ブライダル&ホテル・観光専門学校の専門授業 授業詳細は福岡ブライダル&ホテル・観光専門学校の学生便覧に準拠します。	1・2 通	240	16	○			○			
		○	海外実学研修 Study Abroad-Short Term	国際教育の一環として、海外の企業や提携校等での研修、ネイティブとの交流を通じ、グローバル感覚を養成します。	1 通	40	4	○	○		○			
	○		特別講義 Guest Lecture	業界よりトップ・プロフェッショナルを招聘し、最新かつ高度な技術・知識、世界水準の思考法等を学び、課題発見・克服に役立てます。	1・2 通		随時 認定	○	○		○			
		○	インターンシップ Internship	最終学年次に業界企業（特に志望企業）の現場で実際の業務に携わり、内定獲得を目標に実践力を習得します。	2 通		随時 認定	○			○			○
		○	キャリア クレジット Career Credits	学内外を問わず、就職・デビューを目的とした専門分野活動に対し、報告書提出を以って単位認定を行います。	1・2 通		随時 認定	○			○	○		
○			企業プロジェクト Work Assignments	産学連携教育システムの一環として業界の企業からいただいた課題に応じて楽曲・作品・イベント制作等に取り組み、実践力を養成します。	1・2 通		随時 認定	○			○	○		○
○			進級制作 Required Project	進級に際し、年間の学修成果を作品提出・発表等の形式で表し、そのクオリティーの評価を以って単位認定を行います。	1 通	30	2	○			○	○		
○			卒業制作 Graduation Project	卒業に際し、在学時の学修成果を作品提出・発表等の形式で表し、そのクオリティーの評価を以って単位認定を行います。	2 通	60	4	○			○	○		
		○	サークル活動 Club Activities	学校が認定しサポートする部活動への参加に対し、活動状況に応じて単位認定を行います。	1・2 通		随時 認定	○			○	○		
	○		ヴォイス トレーニング I・II・III・IV Voice Training	ヴォーカリストとして重要な正しい発声方法・ソルフェージュを理解し、体作りから日々の練習法までの基礎を習得します。	1・2 通	240	16	○	○		○			○
	○		楽器演奏基礎 I・II・III・IV Basic Instrumental Technique	鍵盤を中心にポピュラーミュージックで使用する様々な楽器の基本的な奏法や構造を理解し習得します。	1・2 通	120	8	○	○		○			○
	○		テクニク I・II・III・IV Technique	基礎的な歌唱・楽器演奏方法、及び声帯・各楽器構造の理解、実践的なテクニクを習得します。	1・2 通	120	8	○	○		○			○

## 授業科目等の概要

(文化・教養専門課程プロミュージシャン学科) 平成30年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当 年次・ 学期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 と の 連 携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			メロディック コンセプト I・II・III・IV Melodic Concepts	ミュージシャンにとって必要不可欠な音階(スケール)を学び、アレンジ法やソロアプローチ法を習得します。	1・2 通	120	8	○	○		○			○	
○			ハーモニック コンセプト I・II・III・IV Harmonic Concepts	様々なジャンルとビートの関係及び演奏スタイルを分析・理解し、吸収することにより応用力を習得します。	1・2 通	120	8	○	○		○			○	
○			グループアナライズ I・II・III・IV Groove Analyze	様々なコード進行に対するベースラインの理解と分析を通して、その組み立て方を習得します。	1・2 通	120	8	○	○		○			○	
○			ベースライン コンセプト I・II・III・IV Bass Line Concepts	運指能力や手足のコンビネーション、読譜の強化など、基本的な楽器演奏のテクニックを学び、他楽器に関する知識も習得します。	1・2 通	120	8	○	○		○			○	
○			コントロールセオリー I・II・III・IV Control Theory	ルーディメンタルアプローチやスティックコントロール・ペダルワークなど、リズム習得に不可欠なテクニックを習得します。	1・2 通	120	8	○	○		○			○	
○			グループメイク I・II・III・IV Groove Making	2ビート・4ビート・8ビート・16ビート・6/8など、ワールドスタンダードなビートパターンを実践を通じて習得します。	1・2 通	120	8	○	○		○			○	
○			プレイングテクニク I・II・III・IV Playing Techniques	様々な音楽スタイルのメロディー・ハーモニー・リズムのコンビネーションを鍵盤上でのアプローチに反映させる能力を養います。	1・2 通	120	8	○	○		○			○	
○			バンド アンサンブル I・II・III・IV Band Ensemble	バンド形態で楽器だけの演奏、ヴォーカルアンサンブルを通し、様々なジャンルのアンサンブル力やコミュニケーション力を習得します。	1・2 通	240	16	○	○		○			○	○
○			インストゥルメンタル アンサンブル I・II・III・IV Instrumental Ensemble	4リズムを基本としたバンド形態で、様々なジャンル課題演奏を通してのアンサンブル力やコミュニケーション力を養います。	1・2 通	120	8	○	○		○			○	
○			ヴォーカル パフォーマンス Vocal Performance	ヴォーカリストとしてパフォーマンス能力を向上させる為のリズムの取り方、アクションに加え、ステージマナーまでを習得します。	1・2 通	120	8	○	○		○			○	
○			作曲法 I・II・III・IV Composition	作曲に必要な理論・技術・知識を学び、オリジナル楽曲の制作能力を習得します。	1・2 通	120	8	○	○		○			○	
○			スタイルアナライズ I・II・III・IV Style Analysis	音楽業界のスタンダードとされる楽曲をテーマに、構成・アレンジ・奏法・サウンドを分析・吸収し、実践力を習得します。	1・2 通	240	16	○	○		○			○	

## 授業科目等の概要

(文化・教養専門課程プロミュージシャン学科) 平成30年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			ゼミ Seminar	作品制作など特定の課題に対し研究・演習からプレゼンテーションまでを行い、実践力を養います。	1・2 通	210	14	○	○		○			○	
○			プロジェクト Project	産学連携教育システムの一環として業界の企業からいただいた課題に応じて楽曲・作品・イベント制作等に取り組み、実践力を養います。	1・2 通	120	8		○		○	○		○	○
合計				38 科目				単位時間( 114 単位)							

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
2年制 114単位	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	30週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。